

投稿

## シルバー交通安全実践コンクール 潤島福寿会12年連続入賞

潤島区広報連絡委員 須田成治

去る1月27日、小山市立文化センターにおいて、恒例の交通安全・防犯・暴力追放市町民大会が開催されました。その中で、シルバー交通安全実践コンクール入賞団体表彰があり、潤島福寿会からエントリーした3チーム（ライオンチーム・おおかみチーム・しろくまチーム）18名が目標達成し、達成30チームの代表として、しろくまチーム（中村武雄氏）が大久保小山市長から表彰状と交通安全シルバーリーダー認定証が授与されました。

このコンクールは7月から半年間、無事故無違反と、2回の交通安全講習会受講が条件であり、潤島福寿会はこれまで毎年エントリーし、今回で12年連続入賞という偉業を成し遂げたものです。このことは今後の事故防止はもちろんのこと、会の更なる活性・飛躍にも計り知れない効果があると思われます。2月7日、認定証の伝達式(兼祝賀会)を行い、連続13回入賞のチャレンジと事故防止を固く誓い合いました。



投稿

## 安心で安全な地域づくりを目指して

松原区長 富田英俊

松原区は町と協働で、1月21日に『安心で安全な地域づくりを目指して！』をテーマに、「安全・安心見守りネットワーク事業意見交換会」と「認知症を学び地域を支えよう！認知症サポーター養成講座」を開催しました。

意見交換会には、見守り協力員や民生委員など20人が参加し、3つのグループに分かれて意見交換会を行いました。「1対多数の見守り体制が必要で、同じ班内での見守りを原則とすべき」「要配慮者側も、個人情報に縛られることなく情報開示に協力してもらいたい」「老人クラブ・オヤジ会・女子会などさまざまなグループの交流で得た情報を活かしていく」など踏み込んだ意見も出されました。意見交換会をおして、情報の共有を初めとする「地域の情報力」を高めることなどの課題が浮かび上がりました。課題克服に向けて、松原区独自の見守り体制づくりや防災マップづくりなどを着実に取り組んでいくことが大切であることを考えるのに有意義なものになりました。

養成講座には、24人が参加しました。健康福祉課の保健師とキャラバンメイトの2人が講師となって進められ「認知症の種類や症状」「加齢による物忘れと認知症の違い」「認知症の方にどう接するか」などについて説明がありました。

認知症について正しく理解し、偏見を持たないこと、また、認知症の方に対応するときには「否定しない」が最も大切なことであることなど、私たちが認知症に対し「こころのバリアフリー化」をしていくことが必要であることを学びました。

60分間の養成講座の参加者には、認知症の支援と連携の目印でもあるオレンジリングが手渡されました。この講座が、今後地域で認知症の方を支えていく最初の一步になればと期待しています。



投稿

## 野木俳句会

薄氷を蹴るや星降る音のせり  
秋幸幸治

春遠し逃げ惑いしはシリアの子  
石川和子

長閑しや眉に一本白いもの  
小川鶴枝

剪定のひと枝残し昼とする  
幸田慶三郎

半仙戯涙のあとの消ゆるまで  
小林たけし

氷上を駆ける両手を翼とす  
田村行子

小さき手に溢るるひかり雛あられ  
竹内律子

春暁やひき際清し兜太逝く  
藤間雅江

渡良瀬の川面陽だまり鴨の群れ  
長沢弥一郎

集いしはみなやさしかり花菜かな  
軽部榮子







